

所管事務調査報告書
～歯と口腔ケアに関すること～

安芸高田市議会
産業厚生常任委員会

1 調査テーマ

歯と口腔ケアに関すること

2 調査目的

近年の研究により、歯周病などの口腔疾患が体全体の病気に関連していることが明らかになっている。早期から口腔ケアの習慣化を図ることで住民の健康寿命の延伸、将来医療費の削減を図ることが期待されるが、

- ① 事務事業の無料検診について受診率が低い。
- ② 「いい歯の表彰式」の出席者が子どもについては少ないことと、子育て世代の保護者を含め市民への周知が少ないものと見受けられる。

という課題があることから、住民意識向上を促し行動変容につながる施策を調査し提言すること。

3 調査概要

調査期間：2025(令和7)年9月～2026年(令和8)年3月

調査対象：福祉保健部（一部、教育委員会を含む）、他自治体事例、民間事例

調査方法：

- (1) 執行部への資料請求・聞き取り
- (2) 提言方法について外部知見を収集
- (3) 委員会内協議

4 調査結果

委員会での調査・研究の過程で、執行部とも課題意識の共有を図ることができ、2026年度の施政方針に「口腔ケア」が明言され、当初予算において歯科衛生士の任用など歯科保健事業の拡充がされた。

本委員会が取り上げた手法(詳細は表1)を一部用いて施策に取り組むこととなり、調査が一定の成果を上げたと評価する。

今後は、執行部が行う事務事業を注視し、事業の進捗や成果を判断していく方針とした。よって、所管事務調査として取り上げていた「歯と口腔ケアに関すること」は令和8年第1回定例会をもって終了とする。

〈表1〉

	課題	委員会調査による提言案	執行部の対応
1	コロナ禍以降の学校における給食後の歯磨き指導の停滞	・小中学校における給食後の歯磨き指導の推進	歯科衛生士任用による啓発
2	口腔ケアについての意識向上	・民間企業が実施する意識向上事業の活用	
3	歯科検診受診を促進する施策	・ポイント制度を活用した受診勧奨 ・厚生労働省の口腔保健推進事業の活用	・ポイント制度を活用した行動変容促進 ・総合健診への歯科医師派遣

5 調査詳細

番号	調査内容	日時
①	所管事務調査「歯と口腔ケアに関すること」	令和7年9月19日
②	市主催「歯科保健研修会」に参加	令和7年11月8日
③	「歯と口腔ケアに関すること」提言内容の抽出	令和7年12月25日
④	民間企業による意識向上事業の勉強会（オンライン）	令和8年1月9日
⑤	ポイント制度を活用した受診勧奨の勉強会	令和8年1月15日
⑥	小中学校での歯磨き習慣について現状調査	令和8年1月27日
⑦	安芸高田市歯科医師会との意見交換会	令和8年2月20日
⑧	口腔ケアの取組とポイント活用について一般質問	令和8年3月5日
⑨	令和8年度の歯科保健事業について【総括】	令和8年3月12日

1 目的

口腔ケアは予防医療であり、将来の医療費が安くなる傾向があると出ているデータがある。医療費の軽減が期待できるとともに、健康寿命を延ばす意味でも口腔ケアは重要である。今後の政策提言をするために、事務事業の経過と安芸高田市の歯科疾患状況について確認する。

2 内容

執行部への資料請求、聞き取り、質疑応答

3 結果

執行部より事務事業の進捗状況と歯科疾患状況について説明を受ける。

節目年齢の歯周疾患検診事業においては、受診率が低い状況が続いており、市民の認知度向上が課題。事務事業として20代、30代の節目年齢も追加するなど受診勧奨をしているが、受診率の低い状態である。告知方法についても十分とはいえない状況であった。

歯科疾患状況については、受診者数の70%以上が歯肉炎・歯周病治療を行っており、歯周病・歯肉炎の予防を行うことで、歯科に関わる医療費の削減を図ることができると考えられる。

※2025年9月19日の産業厚生常任委員会所管事務調査報告資料より抜粋

(2)歯周疾患検診の対象者数・想定受診者数・受診者数・受診率

【2022年度】

(人)

	20歳	30歳	40歳	50歳	60歳	70歳	80歳	計
対象者数	—	—	234	375	292	436	377	1,714
想定受診者数	—	—	46	75	58	87	131	397
受診者数	—	—	31	65	57	96	110	359
受診率	—	—	13.2%	17.3%	19.5%	22.0%	29.2%	20.9%

【2023年度】

(人)

	20歳	30歳	40歳	50歳	60歳	70歳	80歳	計
対象者数	—	—	260	346	299	421	361	1,687
想定受診者数	—	—	52	69	59	84	126	390
受診者数	—	—	32	53	50	100	90	325
受診率	—	—	12.3%	15.3%	16.7%	23.8%	24.9%	19.3%

【2024年度】

(人)

	20歳	30歳	40歳	50歳	60歳	70歳	80歳	計
対象者数	201	196	238	359	306	419	386	2,105
想定受診者数	40	39	47	71	61	83	135	476
受診者数	20	15	22	47	67	96	85	352
受診率	10.0%	7.7%	9.2%	13.1%	21.9%	22.9%	22.0%	16.7%

※想定受診者数の算定：20歳～70歳は対象者の20%、80歳は対象者の35%を想定

2. 安芸高田市の歯科疾患状況について

(1) 歯科医院の受診者数・治療率・歯科総医療費

【国民健康保険被保険者】

	2022年度	2023年度	2024年度
延べ受診者数	11,772人	11,475人	10,874人
歯肉炎・歯周病治療率	80.9%	79.4%	83.8%
歯科総医療費	170,426,630円	163,982,750円	156,081,080円

資料：国民健康保険事業状況報告書（歯肉炎・歯周病治療率についてはKDBシステムから抽出）

【後期高齢者医療被保険者】

	2022年度	2023年度	2024年度
延べ受診者数	15,323人	15,893人	16,412人
歯肉炎・歯周病治療率	75.0%	74.0%	77.5%
歯科総医療費	252,772,790円	256,402,960円	264,467,570円

資料：広島県後期高齢者医療事業状況報告書（歯肉炎・歯周病治療率についてはKDBシステムから抽出）

② 歯科保健研修会参加

令和7年11月8日

1 目的 委員の歯科に関する知識の習得と、専門的な知見から口腔ケアの重要性を理解する。

2 内容 下記、研修会を受講

標題：「健康長寿のカギはお口にあり！オーラルフレイルを予防しよう」

講師：広島市立北部医療センター安佐市民病院 歯科・口腔外科 岡本康正氏

健康寿命を延ばすための3つの柱として「栄養・運動・社会参加」が挙げられ、そのうち栄養の部分において口腔機能が重要である。オーラルフレイルの対策として2つ挙げており、①噛める力を残す（歯を失わない）②お口の機能を保つ（話す、食べるといった機能）がある。歯を失う原因は歯周病とむし歯であり定期検診が重要である。昔は「歯が悪くなったら歯科へ」だったが、今は「かかりつけ歯科で定期的に診てもらおう」が大切。

3 結果 情報を委員で共有し、口腔ケアの重要性を理解し、今後の提言内容の抽出に役立てることができた。また、歯科医師会にも委員会の動きを説明し、協力いただけるという話となった。

健康寿命を延ばすための3つの柱



フレイル予防ハンドブックより

2つのオーラルフレイル対策

噛める歯を残す

歯を失う2大疾患は歯周病とむし歯です。歯を失わないために毎日の歯磨きと定期的な歯科検診が重要。抜けてしまった箇所があれば差し歯やインプラントにより、噛める状態にしておきましょう。

大骨炭(木炭)を主成分とする歯磨き粉は、歯垢の付着を抑制し、歯の健康を維持する効果があります。

歯を失う2大原因は
歯周病とむし歯



出典：平成30年 永久歯の抜歯原因調査
報告書 (公財) 8020推進財団

お口の機能を保つ

お口には大きく「嚥す」「食べる」の機能があります。食べるには、口を開けて噛み砕き、味わい、食べ物をまとめ、舌で送り込み、そして飲み込むといった一連の動きがあり、噛む力や飲み込む力、舌や唾液といった様々な機能が関わっています。

お口の機能
とは？



出典：岡本康正氏の研修資料

③ 提言内容の抽出

令和7年12月25日

- 1 目的 産業厚生常任委員会としてどのような提言を行うことができるか抽出し次の調査項目を決定する。
- 2 内容 委員からアイデアを出し合う
- 3 結果

執行部からの報告資料に基づく課題を解決するために、

 - ・経済的インセンティブを見直し、歯科検診受診者数を増やす
 - ・外部知見の活用と講習会の開催する
 - ・執行部との意見交換の場を設ける
 - ・実証事業者としてモニターを募集し、医療補助削減効果を検証する
 - ・子育て世代への啓発を強化し、家庭から習慣づける
 - ・小学校の給食後の歯磨きについての現状、フッ素塗布について保育所、小学校、中学校の状況を確認し、必要な施策を行う
 - ・将来的な医療費削減につながる口腔ケア事業の推進を提案する

という意見が出た。これを踏まえて、より理解するために企業の勉強会や調査を行うこととした。

④ 民間企業による意識向上事業の勉強会

令和8年1月9日

- 1 目的 民間企業（ライオン株式会社）が実施している口腔ケアの意識向上に資する事業を理解する。
- 2 内容 口腔ケアに関するセミナーの開催や動画の視聴サービス、簡易スクリーニングキットを用いて口腔内の状況を把握する事業などがあった。
- 3 結果 民間企業が実施する事業は、口腔ケアに対する意識を向上する効果の高い印象。あわせて、どれくらいのコストがかかるかということも理解できた。

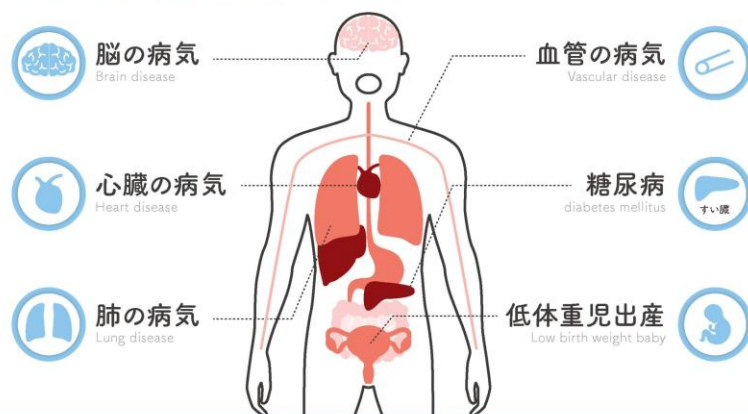


写真：ライオン株式会社様との打合せ(オンライン)

オーラルケアの重要性



- ・ 歯周病が、糖尿病のリスクを高めるなど、「歯と口」と全身健康は密接に関わっています
- ・ 「歯と口」をケアすることは、将来の全身健康維持にも影響します



© Lion Corporation 転載・二次利用はお控えください（貴社内での共有のみ）

5

ご提供サービスの全体像



- ・ 体験～学習を中心とした4つのサービスを提供しております。1つのサービスのみの導入も可能です
- ・ 定着支援(習慣化)に向け、グッズの配布も可能です。また、定期的な施策の実施を推奨しております

体験型	学習型	定着促進
<p>自分のおくちの健康状態やリスクを、点数化・グラフ化により理解することができます</p> <p>1 唾液検査</p> <p>2 おくちの健康スコアチェック</p>	<p>オーラルケアに関する基本的な知識から、具体的なケア方法まで学ぶことができます</p> <p>3 セミナー</p> <p>4 e-ラーニング</p>	<p>オーラルケアグッズを配布し習慣化を促進します</p> <p>驚きのあるグッズ</p> <p>使ったことがないグッズ</p> <p>定期的な施策実施も定着化に有効です</p>

© Lion Corporation 転載・二次利用はお控えください（貴社内での共有のみ）

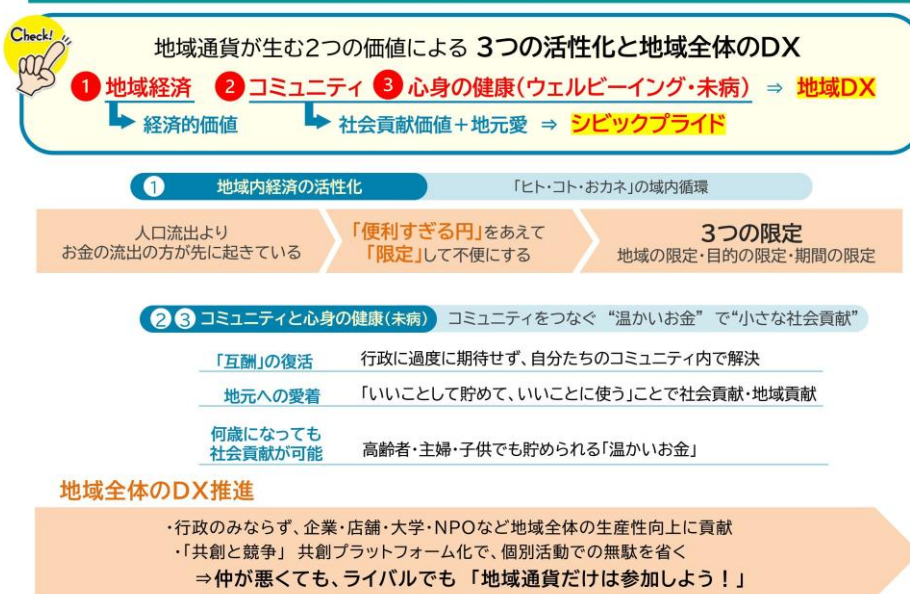
12

出典：ライオン株式会社様資料「オーラルケアについて」

⑤ 「としポ」を活用した受診勧奨の勉強会 令和8年1月15日

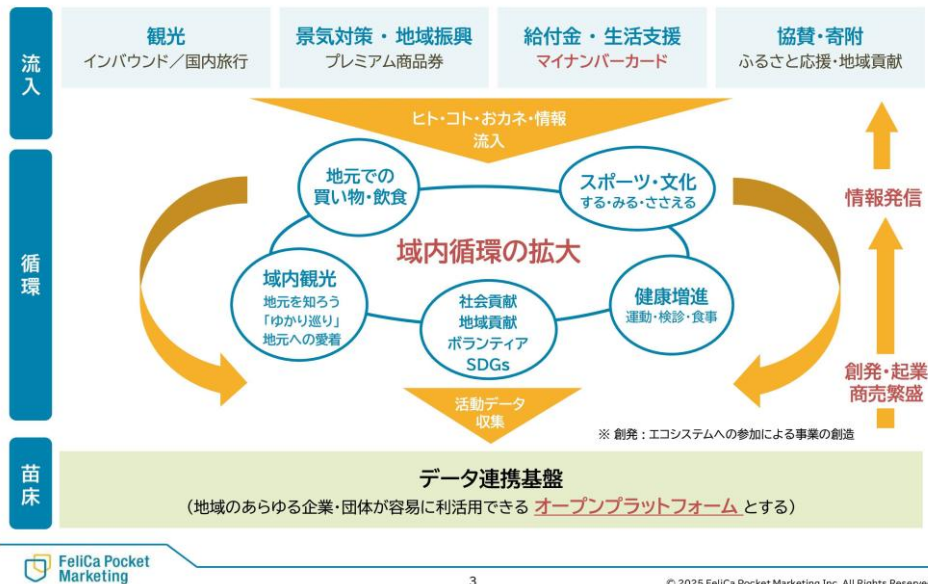
- 1 目的 「としポ」を活用した受診勧奨の仕組みや事例を勉強し、どのように活かすことができるか理解する。
- 2 内容 健康づくりの習慣化を狙い、歩数をカウントすることでポイントが貯まることや、検診を受けることでポイントが付与される仕組みについて理解した。加盟店はQRコードを設置する必要があることや、ポイント発行時にコストが発生するといった運営側の仕組みについても確認した。
- 3 結果 ポイント制度を用いることで、これまで習慣にできていない人にもアプローチできる可能性があることを知った。ポイントを貯める・使うといったところにスマートフォンの操作の得手不得手が関わるなど、全世代で受診勧奨に効果があるかは難しいことも認識した。

3つの活性化



“つなげて・ながして・めぐらせる” 新しい価値の循環

ヒト・コト・おカネ・情報の「流入と循環」を促し流通量を拡大、集約されたデータは「創発・起業」の苗床



出典：フェリカポケットマーケティング株式会社様資料「としポの社会的役割」

⑥ 小中学校での歯磨き習慣について現状調査 令和8年1月27日

- 1 目的 小中学生が学校で実施している歯磨きの状況と、歯科疾患を理解する
- 2 内容 執行部へ聞き取りを行い、各学校でどのように実施しているか確認した。
- 3 結果 コロナ以降必須としていない状況。学校によって対応が分かれた。高宮中学校は給食後の歯磨きを7割実施しているなど高い実施率の学校もあった。保育園・幼稚園ではフッ素塗布を実施している子どもは多く、予防の一つとして意識している子育て世帯は多いことがわかった。学校ごとに対応が分かれていることについては、市として方針を出すことができないかなどを含めて一般質問等で確認することとした。

⑦ 安芸高田市歯科医師会との意見交換会

令和8年2月20日

- 1 目的 これまで調査した内容を踏まえ、歯科医師会との意見交換を行うことで現状の認識を深め、必要な提言内容を精査すること。
- 2 内容 安芸高田市歯科医師会会長をはじめ、3名の歯科医をお招きし、口腔ケアの重要性と現在の取り組みについてご説明いただいた後、意見交換を行った。
- 3 結果 新年度(R8)、集団特定健康診査の会場の一部において歯科検診が行えるよう調整が行われており、歯科医師会として前向きに対応されていることがわかった。厚生労働省の口腔保健推進事業にある、「特定検診と連携した簡易スクリーニング検査」の活用について、意見交換を行ったところ、一定の有用性については認められるものの、まずは特定健診での歯科検診の実施を優先的に対応したい意向が確認された。

⑧ 口腔ケアの取組とポイント活用について一般質問

令和8年3月5日

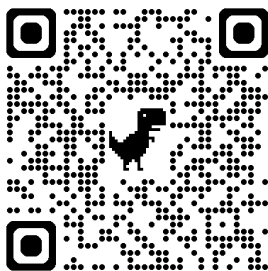
1 目的

政策提言となり得るポイント3点(A.学校での歯磨き指導 B.意識向上 C.歯科検診の受診勧奨)について、執行部の現状認識と今後の対応について確認し、提言内容を精査すること

2 内容

委員会を代表し、佐々木智之委員・熊高慎二委員が質問を行った。

↓各委員の一般質問議事録



3 結果

Aについて、コロナ以降指導ができていなかった時期があり、現在学校ごとにばらつきがある、という認識が示され、歯科医師会、歯科衛生士などと連携し指導していきたい旨の答弁を得た。

Bについて、既存の各種保険事業やイベントでの啓発に加え、新年度(R8)登用する歯科衛生士を健康教室等に派遣する計画が示された。

Cについて、新年度(R8)より総合健診にて歯科検診を実施すること。ポイント(LINE)を活用した健康チャレンジ事業(受診勧奨)に取り組むこと。簡易スクリーニング検査は歯科医師会との意見交換をしながら検討すること。という方向性が示された。

⑨ 令和8年度の歯科保健事業について【総括】 令和8年3月12日

1 目的

⑧の一般質問で得た回答により、政策提言の内容について精査すること

2 内容

一般質問の答弁を確認した後、今後の政策提言について議論を行った。

3 結果

報告書1ページ記載の「4 調査結果」の通り、本委員会で調査した課題については新年度(R8)の歯科保健事業で対応がなされることを確認した。提言案が事業化されたことから、政策提言を前提とした本調査は終了することとした。今後は、期待される健康寿命の延伸、将来医療費の削減につながるよう、事業の執行状況を注視し、適宜、調査・提言などを実施したい。